

平成27年12月16日

報道関係者 各位

島原市指定文化財の新規指定について

標記のことについて、下記のとおりお知らせします。

記

1、新たに市指定したもの

○日米親善人形（通称 リトル・メリー）
にちべいしんぜんにんぎょう

所在地 島原市城内一丁目1129 島原市立第一小学校

○甚三郎山
じんざぶろうやま

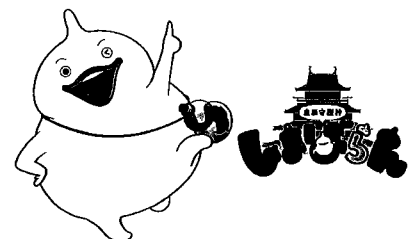
所在地 島原市萩原二丁目5466

2、指定日 平成27年12月1日（火）

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市



担当・島原市 社会教育課歴史文化班 林田
電話・0957-63-1111（内線 652）
E-mail・t-hayashida@city.shimabara.lg.jp



島原守護神キャラクター
「しまばらん」



島原市教育委員会告示第23号

島原市文化財保護条例第4条第1項の規定により下記の物件を島原市指定文化財に指定する。

平成27年12月1日

島原市教育委員会

委員長 本多 直行



記

種 別	文化財の名称	所有者(管理者等)
有形文化財	日米親善人形 (通称 リトル・メリー)	島原市立第一小学校 校長 森本 和孝
史跡	甚三郎山	島原市長 古川 隆三郎

市 指 定 文 化 財

島原市教育委員会

種 別	有形文化財・無形文化財・民俗文化財・史跡・名勝・天然記念物
文化財の名称	日米親善人形（通称 リトル・メリー）
文化財の所在地	島原市城内一丁目 1129
所有者の住所・氏名	島原市城内一丁目 1129 島原市立第一小学校長 森本和孝
現状	島原市立第一小学校の校長室でガラスケースに入れて展示
由来・伝来・作者等	大正時代ごろにアメリカで広がった日本人移民への排斥運動をきっかけに、日米の緊張関係が高まりつつあった。それを和らげるため、昭和 2 年(1927)春、アメリカ人宣教師シドニー・ギュリック博士の提案により、アメリカの「世界児童親善会」から日本の「国際児童親善会」へ約 1 万 2000 体の日米親善人形が贈られた。島原第一小学校の日米親善人形は、この中の 1 体である。 島原では、昭和 2 年 5 月 18 日に旧制島原中学校(現長崎県立島原高等学校)の講堂において第一小・第二小・第三小・幼稚園合同の歓迎式が開催された。 昭和 16 年(1941)、日本とアメリカが開戦すると、日米親善人形が敵国の人形とされ、焼却されるなどした。この状況の中で、第一小学校の日米親善人形は、ひな人形の木箱の中に隠されて戦禍を免れた。昭和 59 年(1984)に再び発見された当時、モンペのような服を着ていたことから、目立たないように日本風の服に着せ替えひな人形の中に隠したものと考えられている。国全体が軍国主義に進む中、人形を守った行動からは島原に根付いた教育精神を感じられる。 来日した当時の「パスポート」が残っていないため本命がわからなかったが、平成 12(2000)年に子どもたちから募集した「リトル・メリー」の愛称で親しまれている。平成 15 年(2003)に発足した民間団体の「島原親善人形の会」により、第一小学校を中心とした語り部活動や平和学習への活用がなされ、近年では学習教材にも取り上げられている。 なお、全国で約 330 体の日米親善人形が残っているが、長崎県内で残っているのは島原市と平戸市の 2 体のみである。状態については、平成 14 年(2002)に来日した人形研究家ビル・ゴードン氏が「ふつうのアメリカ人形なのに、よい状態で保存されている」と評価している。 島原の戦中戦後の歴史・文化・教育を考えるうえで貴重な資料である。 <参考文献等> 武田英子 1985『写真資料集 青い眼の人形』山口書店、『感想文集 2003 年春 長崎瓊子里帰り島原展』長崎瓊子里帰り島原展実行委員会、『わたしたちの島原市』島原市教育委員会、『小学社会 6 上』教育出版社、1973 年放映「人形使節メリー」NHK、「島原新聞」昭和 59 年 3 月 8 日、「長崎新聞」平成 15 年 3 月 5 日、
その他	平成 18 年（2005）には、ギュリック三世により島原第一小学校に、新たに親善人形「ジョアンナ」が贈られている。

市 指 定 文 化 財

島原市教育委員会

種 別	有形文化財・無形文化財・民俗文化財・ <u>史跡</u> ・名勝・天然記念物
文化財の名称	甚三郎山
文化財の所在地	島原市萩原二丁目5466番
所有者の 住所・氏名	長崎県島原市上の町537番地 島原市長 古川 隆三郎
現 状	原野草生地 石造物13基現存
由来・伝来・作者等	島原藩主高力忠房の後、明暦二年に藩主となった高力隆長は自身の利益を優先し遊興に耽り、領民の困苦を省みること無く、苛斂誅求を行ったため、怨嗟の声が領内に満ちた。隆長の行状を諫める忠臣は放逐や閉門、あるいは自決させ自ら手討ちにしたりしたため、奸臣が大いに跋扈し、藩政が大いに乱れた。家老志賀玄蕃允（甚三郎）が、これを憂い、面を冒さず隆長を強く諫めた。隆長は、激怒して直ちに玄蕃允を手討ちに（寛文六年七月十三日）、江戸にいた玄蕃允の息子の吉兵衛に討手を差し向けて斬り殺した。²⁾ 甚三郎山は志賀玄蕃允が高力隆長を諫め、手討ちになった場所と伝わる。 その後、領民は、文化三年に当時の藩主松平忠馮の許可を得て甚三郎山に普賢菩薩の祠を建立した。³⁾ 絵図では、森岳城図など松平氏が藩主であった時期の絵図に「甚三郎山」の記述が見られる。¹⁾ 現地には、文化四年(1807)の銘が刻まれる手水鉢が残されている。その他、天保三年(1832)の石花表、安政四年(1857)の石燈籠、明治三十八年(1905)の石碑、明治四十五年(1912)の旗立石が残されており、文化年間以後、甚三郎山の近くに住むの住民の氏神的な位置付けを持つ場所として継続して使用されている。 平成2年頃まで、新暦9月9日に奉納相撲が行われていた。 参考文献 1)「森岳城図」八幡神社(島原市八幡町)所蔵 2)林 銑吉 1954「第一〇高力忠房島原を領す 四、隆長の暴政と高力の改易」『島原半嶋史』長崎県南高来郡市教育会 3)渡辺政弼 2003『深溝世紀 卷十七 靖公 仮名交じり文』島原市教育委員会
その他	島原市萩原二丁目5466番に所在する石造物 自然石（御神体）及び玉垣1基、手水鉢2基（1基は文化四年）、燈籠3基（1基は安政四年）、石祠3基（1基は馬頭観音を祀る）、旗立石2基（明治四十五年）、石碑1基（明治三十八年）、石花表（鳥居）1基（天保三年）